夜道の休憩

ガムベース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜道の休憩

【Nコード】

N5800R

【作者名】

ガムベース

【あらすじ】

帰宅途中の夜、公園に立ち寄って休憩する話

帰り道を歩いていると街灯が点き始めた。車のライトがまぶしくて、ライトの陰から自転車が音もなく走ってくるが、向こうからは見えていらずしく不思議とぎりぎりのところでぶつからなかった。僕が動くとき自転車はあわてたようにハンドルを切るのが面白かったけれど、僕のせいでぶつかってしまったのは気の毒だった。だから、僕は排水溝のふたの上を、植え込みに靴をぶつけながら歩いていた。街灯の下にくると立ち止まり、地図に目を落とし、毎度自分がどこにいるのかの確認から始めて、それが終わると地図がどちらを向いているのかが分からなくなっていたので、なかなか先に進まなかった。そうやって暗い道のりを確かめながら歩いた。風は吹いていなかったけれど、手袋を靴から出さなかったため、慎重な手つきになっていた。

三叉路の一角は公園になっていて、入ってみると、ブランコがあつて、砂場があつて、鉄棒まであつて、しかも石造りのベンチの脇には街灯がたつていて、公園の半分が明るかった。ベンチには誰もいなかった。僕は明かりに向かって靴を脚にぶつけながら歩いた。本がいつぱいに詰まった靴をベンチに下して、自分も隣に腰かけた。ベンチは冷えていて、木が少なかつたので風通しもよく、僕は今日初めて手袋を取り出して、いつでも着けられるように上着のポケットに入れた。そうして何気なく地図を開くと、またしても向きがわからなくなっていたので、公園の形を見ながら地図を回転させた。次の目的地の駅までは、一キロくらいだけけれど、時間は多めに見積もつて二十五分とみておく。それでも電車には十分に間に合うので、僕は温かいジュースを飲みながら歩こうと思つて、公園の向かいにある自動販売機に目を止めた。

販売機の前で、小学校高学年くらいの女の子が、兄らしい男と手をつないでジュースを買っていた。女の子が小銭を入れて、下から

二段目の温かい飲み物を選んだ。遠くに音が響き、女の子はジュースを取るためにしゃがみこんだ。僕は女の子の動作をじっと観察していたけれど、ふと時計を見るとまだ一分しか経っていないくて、それで、僕は乗る電車を一本遅らせることにして、温まったベンチに座っていた。女の子は兄と手を繋ぐ寸前に、僕に気づいたらしく、こちらを見た。そうして、目が合った。女の子は僕を見ていた。僕は、兄と手をつなぐ寸前で僕の目を見つめだした女の子を見ながら、ただ小さな子供にそうするように微笑んだ。気づいてもらえただろうか。どちらでもよかったけれど、女の子は気づかなかつたらしく、兄に手を掴まれると、僕と見つめ合っていたのが夢の中の話だったみたいに、元の道を歩いて行った。

僕は急いで立ち上がると、公園を出て、販売機の前をジュースを買わずに通り過ぎて、駅に向かう。走れば次の電車に間に合う。途中で手袋をはめて、地図をポケットにしまった。駅までは何も考えずにまっすぐ進むだけだった。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5800r/>

夜道の休憩

2011年11月14日11時14分発行